

## 4. 【報告事項2】令和8年度事業計画と予算

### 4.1 令和8年度事業計画

#### 4.1.1 管理運営計画

##### (1) 総会

総会は定時社員総会として事業年度終了（12月31日）後2カ月（2月末日）以内に開催する。総会では事業報告及び決算の承認、定款の変更、理事の選任他の重要事項を決議する。

##### (2) 理事会

令和8年度中に、2回あるいはそれ以上理事会を開催し、事業計画・収支予算、事業報告・決算の審議承認の他、社員総会の招集及び審議事項、規則の制定、変更、本会議の職務執行の監督、役員員の選定等の審議・決定等を行う。

##### (3) 企画委員会

企画委員会を適宜開催し、次の業務を行う。

- ① 会長の作成する事業計画書の内容となる事業等について検討
- ② 大ダムに係る調査研究等の成果の紹介及び普及啓発のための企画案を作成

##### (4) 技術委員会

技術委員会を適宜開催し、次の業務を行う。

- ① 大ダムに関する調査研究
- ② 国際的な技術交流等に関する計画案を作成

#### 4.1.2 事業計画

定款第4条に定める次の事業を行う。

- ・大ダムに関する情報収集、調査及び研究
- ・大ダムに関する技術の交流及び指導
- ・国際大ダム会議への参加及びその活動に対する協力並びに大ダムに関する国際技術交流
- ・大ダムに係る調査研究等に係る成果の紹介及び普及啓発

##### (1) 国際大ダム会議等国際交流事業

###### 1) ICOLD 第94回年次例会（メキシコ・グアダラハラ）参加

2026年5月23日（土）から5月29日（金）までの7日間に亘り、メキシコ・グアダラハラで開催される ICOLD 第94回年次例会に参加する。

表- 4.1 ICOLD 第94回年次例会 日程

全体プログラム

会場： the iconic Expo Guadalajara

日付	午前	午後	夕刻
～5月21日	プレスタディーツアー（メキシコシティ）		
21日 （木）	・鉦滓ダムに関する講習会（1日目） ・ICOLD 役員会議		役員・組織委員会 夕食会
22日 （金）	・鉦滓ダムに関する講習会（2日目）		
	・ICOLD 役員会議 ・現地登録	・技術委員会 委員長会議 ・現地登録	役員・技術委員 長・副委員長 夕食会
23日 （土）	・ICOLD 技術委員会ワークショップ ・現地登録		

	・シティツアー（午前・午後）	
24日 (日)	・ICOLD技術委員会 ・現地登録 ・シティツアー（午前・午後）	若手技術者交流会 ・若手技術者フォーラム ・地域クラブ ・仏語圏会議
25日 (月)	・全体セッション/基調講演 ・技術展示会開会式	・国際シンポジウム ・技術展示会 歓迎会 (@展示会場)
26日 (火)	・国際シンポジウム ・文化体験ツアー ・技術展示会	文化行事
27日 (水)	・国際シンポジウム ・技術展示会	日本人会
28日 (木)	・総会 ・ワークショップ ・技術見学会（ラ・イエスカダム、地域水利プロジェクト）	送別会 ・技術展示会 ・閉会式
29日 (金)	・ワークショップ ・技術見学会（ラ・イエスカダム、地域水利プロジェクト）	
5月30日～	ポストスタディツアー	

① 技術委員会

技術委員会に参加し情報交流する(表-4.2)。技術委員会の進捗状況・課題の確認、情報共有等のため、事前に国際分科会を開催する。

表-4.2 技術委員会への参加

区分	委員会名	氏名	所属
A	ダム解析設計における計算問題委員会	森 貴信	日本工営株式会社
B	ダム設計における地震問題委員会	佐々木 隆	一般財団法人ダム技術センター
C	ダム水理委員会	酒井 匠	株式会社建設技術研究所
D	コンクリートダム委員会	山口 嘉一	一般財団法人ダム技術センター
E	フィルダム委員会	田頭 秀和	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
G	環境委員会	中込 淳	一般財団法人水源地環境センター
		福田 悠太	日本工営株式会社
H	ダム安全委員会	津田 守正	独立行政法人水資源機構
HWS	歴史的水利構造物（水利遺産）	井上 一哉	神戸大学大学院
		川崎 秀明	NPO 風土工学デザイン研究所
I	ダムを取り巻く公衆の安全委員会	市原 裕之	独立行政法人水資源機構
J	貯水池堆砂委員会	佐藤 正俊	中部電力株式会社
		角 哲也	京都大学 防災研究所
K	水力発電統合運用委員会	中島 洋	関西電力株式会社
LE	堤防委員会	森 啓年	山口大学工学部
M	ダム運用・維持および補修委員会	吉村 健	九州電力株式会社
N	広報・啓発委員会	杉山 弘泰	電源開発株式会社
O	ダム台帳・文書委員会	柏柳 正之	電源開発株式会社
P	セメント混合材料ダム委員会	安田 成夫	一般財団法人ダム技術センター
Q	ダム監視委員会	恒川 明伸	東京電力ホールディングス株式会社
S	ダムの安全のための洪水評価委員会	水橋 雄太郎	電源開発株式会社

T	ダム将来見通しと課題委員会	福田 忠弘	日本工営株式会社
V	水理機械委員会	山本 浩樹	八千代エンジニアリング株式会社
Y	地球気候変動とダム委員会	筒井 純一	一般財団法人電力中央研究所
ZX2	若手技術者集会	笹木 悠佑	八千代エンジニアリング株式会社

② APG会議

ICOLD 地域クラブのひとつである「アジアパシフィックグループ(APG)」の会議を主催(角副総裁がAPGの議長)し、当地域のダム情報交換と技術交流活動を推進する。

③ 国際シンポジウム・テーマと応募状況

今回のメインテーマは、Water, Energy, and Society: The Evolving Role of Dams in a Changing World (水とエネルギーと社会: 変わりゆく世界の中で進化し続けるダムの役割)である。

10のサブテーマが設けられている(表-4.3)。会員に広く投稿依頼をしたところ、25件の応募があった。メキシコ事務局でのアブストラクト審査結果は15件が口頭発表、9件がポスター発表であった。(表-4.4)

表-4.3 国際シンポジウム・サブテーマ

原文	和訳
1. Water Planning, Water Management, and Climate Resilience	水資源計画、水資源管理、及び気候変動への適応力
2. Dam Safety Policy and Governance	ダム安全政策とガバナンス
3. Dam Construction and Rehabilitation: Innovation and Lifecycle Extension	ダムの建設と修復: 技術革新及び長寿命化
4. Dam Performance Monitoring	ダムの性能の監視
5. Flood Resiliency in Developed and Developing Countries	開発国と開発途上国における洪水耐性
6. Sedimentation Management and Reservoir Longevity	堆砂対策と貯水池の長寿命化
7. Fish Passage, Biodiversity and Environmental Integration	魚道整備、生物多様性と環境保全への統合
8. Community Engagement in Dam Development	ダム開発における地域住民の参画
9. Tailings Dam Safety	鉱滓ダムの安全
10. Dam Decommissioning and Removal	ダムの廃止と撤去

表-4.4 日本からの投稿論文

サブテーマ No.	和文タイトル	筆頭著者	所属	発表
1. 水資源計画、水資源管理、及び気候変動への適応力	安岐ダム再開発事業 (Upgrading Project)	山口 嘉一	一般財団法人ダム技術センター	P
	アンサンブル降雨予測を活用したダム放流操作モデルの構築	戸田 涼介	いであ株式会社	0
	治水効果と利水安全度のバランスの確保を目的としたアンサンブル気候予測データを使用した農業用ダムの洪水時操作のパターン化の試行	最上友香子	一般財団法人水源地環境センター	0
	淀川水系のダム群による発電に資する貯水位運用高度化	丹羽 賢一	独立行政法人 水資源機構	0
	有望水力地点の机上検討業務におけるデジタル技術活用による効率化	川嶋 建吾	関西電力株式会社	0
	長期アンサンブル降雨予測を用いた発電量増加に向けた黒部ダムにおける貯水池運用高度化	廣田 康起	関西電力株式会社	0

2. ダム安全政策とガバナンス	令和6年能登半島地震時における小屋ダムの挙動に関する三次元再現解析とその考察	久住 晃平	国土交通省 国土技術政策総合研究所	0
	小屋ダムの令和6年能登半島地震時挙動に関する2次元再現解析と現地調査結果との比較検討	磯田 裕一	国土技術政策総合研究所	0
	スキージャンプ式減勢工の設計における形状最適化に関する実験的研究	奥平 雅樹	関西電力株式会社	P
3. ダムの建設と修復：技術革新及び長寿命化	間隙水圧モニタリングによるフィルダム基礎岩盤の水理地質構造同定とICTグラウチング現場品質管理システムの構築	石黒 健	前田建設工業株式会社	0
	力学的性状が不明瞭な既設アースダムのリニューアル：村山上貯水池堤体における施工技術	小林 孝彰	鹿島建設株式会社	P
	野村ダム改良事業における堤体削孔及び上流仮締切の施工について	末吉 信一郎	清水建設株式会社	P
	SCプレミアムベルコンの足羽川ダムへの実装	長尾 貴浩	清水建設株式会社	P
	マルチスペクトルカメラを活用したダム基礎岩盤の定量評価	小野 雄司	西松建設株式会社	P
	日本におけるダム再生による機能向上の可視化と制約条件の整理	有光 剛	京都大学	P
	4. ダムの性能の監視	嵩上げ重力式コンクリートダムの計測データに基づくマスコンクリートの熱伝導特性	安田成夫	一般財団法人ダム技術センター
2024年能登半島地震を受けたロックフィルダムの耐震性能		坂井 孝太郎	NTCコンサルタンツ株式会社	0
ダムの地震応答記録データベースの更新		柏柳 正之	電源開発株式会社	P
6. 堆砂対策と貯水池の長寿命化	天竜川水系における土砂問題への対応：下流ダム管理からの知見	恩田 千早	電源開発株式会社	0
	電極版法による排砂バイパストンネルでの土砂移動量計測	堤 大三	信州大学	0
	貯水池堆砂面のリアルタイム計測に向けた低コスト音響エコー測深手	小柴 孝太	京都大学	0
7. 魚道整備、生物多様性と環境保全への統合	尾原ダムの下流河川環境改善の試行結果と様々な取り組みについて	福田 悠太	日本工営株式会社	0
	ダム湖におけるネイチャーポジティブの実現に向けた湿地ビオトープ整備と水位変動帯の生態系機能の評価	大杉 奉功	一般財団法人水源地環境センター	P
	一庫ダムでのダム下流河川の環境復元対策とその成果	北爪 皓	独立行政法人 水資源機構	0

発表 0: 口頭、P: ポスター

#### ④ 技術展示

JCOLD ブースを1区画(1区画: 3m×3m) 予約しており、ICOLD 技術展示企画・運営委員会が今後展示内容を協議、準備、展示運営を行っていく。

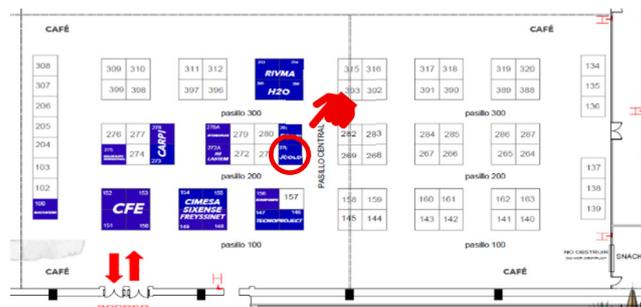


図-4.1 予約したJCOLDブース位置

## 2) 第13回EADC杭州への参加

2026年10月(予定)に中国・杭州で開催される第13回東アジア地域ダム会議(EADC)に参加する。

特に、2025年定時社員総会で報告したように若手技術者を対象に、以下に示すように参加助成企画募集を行う。

### ① 募集内容

JCOLDは、若手技術者の国際会議参加の機会向上のために、第13回東アジア地域ダム会議若手技術者参加助成企画に参加される会員を募集する。

参加に当たっては、渡航・滞在に係わる次の費用はJCOLDが負担する。

- ・中国杭州市までの渡航費

当会指定航空便による日本-中国間の往復航空券代金

(エコノミークラス、空港施設使用料、燃油サーチャージ等 航空機利用に係わる費用)

- ・滞在時の宿泊費

当会が指定するホテルでの宿泊費(シングルルーム、朝食付き)

※助成に含まれないもの：会議登録費、テクニカルツアー参加費(ツアーが宿泊付きの場合の宿泊費用も含む)、国内空港までの交通費、現地交通費、現地昼食・夕食費、パスポート取得費、ビザ取得費(状況に応じ)、旅行保険費用、ホテルでの個人使用に係わる料金等

### ② 応募条件

2025年2月社員総会での報告に基づき、2024年に開催された第12回EADC名古屋において、多くの方々にご参加いただいた企業・団体に所属される若手技術者を対象とする。(若手技術者：2026年1月時点で40歳程度までを原則。若手技術者は、ダム技術者に限らず広く土木技術者を対象とします。)

対象となる企業・団体は 表-4.5 に示すとおり。

表-4.5 対象となる企業団体名と人数

2名様までの参加助成対象 企業・団体名 (6企業・団体、12名様)	1名様までの参加助成対象 企業・団体名 (10企業・団体、10名様)
鹿島建設 株式会社	株式会社 安藤・間
株式会社 熊谷組	株式会社 大林組
大成建設 株式会社	関西電力 株式会社
株式会社 竹中土木	九州電力 株式会社
西松建設 株式会社	一般財団法人 水源地環境センター
前田建設工業 株式会社	中国電力 株式会社
	中部電力 株式会社
	電源開発 株式会社
	飛島建設 株式会社
	八千代エンジニアリング 株式会社

計 16企業・団体 22名

### 3) ICOLD 幹部来日への対応

2026 年 3 月 15, 16 日に京都で ICOLD の幹部会(総裁、副総裁、事務局長)が開催される。

これに先立ち、東京に立ち寄り国交省 水管理・国土保全局長への表敬訪問、JCOLD との意見交換が予定されている。現時点での行程(案)は、次のとおり。

3/18 からは、韓国を訪問し 2027 年に開催される ICOLD 年次例会の進捗状況を確認する予定。角先生は、アジア・太平洋地区の副総裁の立場からこれに同行し、進捗状況を確認する。

#### 【行程】

3/11 (水) 来日 → 東京泊  
3/12 (木) 国交省表敬、JCOLD ミーティング、歓迎夕食会 東京泊  
3/13 (金) 東京 → 宮ヶ瀬ダム訪問 → 箱根 箱根泊  
3/14 (土) 箱根 → 小田原 → (新幹線) → 京都 京都泊  
3/15 (日) 幹部会 京都泊 (同行者: Accompany ツアー)  
3/16 (月) 幹部会 京都泊 (同行者: Accompany ツアー)  
3/17 (火) 京都市内観光 (全員) 京都泊  
3/18 (水) ~3/21 (土) 関空発後 韓国訪問 角先生同行

#### 【来日予定者: 7名】

総 裁: Mr. Devendra Sharma (インド)  
(Ms. Aruna Sharma ご夫人 同行)  
副総裁: Mr. Laurent Mouvet (スイス)  
(Ms. Lydia Mouvet ご夫人 同行)  
Ms. Lisa Bensasson (ギリシャ)  
事務局長: Mr. Frédéric Corrége (フランス)  
(Ms. Silvie Corrége ご夫人 同行)

## (2) 調査研究事業

### 1) ダム建設状況調査

令和 8 年 3 月 31 日現在の工事中のダムについて「大ダム調査表」により調査し「ダム建設状況調査表」にまとめ会誌「大ダム」に掲載する。

### 2) ダム施設概要調査

令和 7 年 4 月 1 日より令和 8 年 3 月 31 日までに竣工したダムについて調査し「ダム施設概要調査表」を作成する。上記 1) とともに調査の成果を ICOLD 技術委員会 “Committee of the World Register of Dams and Documentation” に報告する。

### 3) 国際分科会

2026 年 5 月にメキシコ・グアダハラにて開催される第 94 回年次例会に向けて、技術委員会の進捗状況・課題の確認、情報共有等のため、事前に国際分科会を開催する。また、角教授の ICOLD 副総裁としての活動とも連携しつつ、APG 議長国としてアジア太平洋各国の情報共有、連携に寄与すべく円滑で有意義な会議運営を行う。

論文査読 WG では、ICOLD メキシコ年次例会国際シンポジウム提出論文、EADC 中国提出論文、ICOLD 韓国年次例会国際シンポジウム要旨の各査読を行う。

投稿論文検討 WG では、EADC 中国提出本論文 及び 2027 年年次例会 (韓国) シンポジウム要旨提出に向けた活動を行う。

JCOLD-YPF では 3 年目の活動として初年度の運営経験やイベントにおけるアンケート結果を活かして、より効果的に若手技術者の活性化に資する活動を検討・実施する。

### 4) ダムコンクリート凍害実験研究分科会

次に示す定例の審議会を開催するほか、現在までの調査結果のとりまとめを実施する。

令和 8 年 4 月: 会誌「大ダム」に調査結果を第 3 報として報告する。別刷を 150 部別途製本し、関係各所に配布する。

令和8年6月：各参加機関における令和8年度調査計画の報告及び審議を実施する。  
令和8年12月：定例測定結果の報告及び審議を実施する。

5) **ダム**の効用増大および流域環境向上のためのダム再開発事例分科会

- ・国内情報の収集および整理 ⇒ 日韓の連携へ展開 ⇒ 海外諸国・ICOLD TCへ展開
- ・ICOLD 2026 (5/23~29、メキシコ・グアダハラ) において進捗報告(論文投稿, WS 開催は今後調整)。
- ・ICOLD TC-M (運用・維持管理・補修技術委員会) と親和性があり, 引き続き情報交換

6) **ダム及び基礎の地震時加速度記録更新分科会**

記録収集状況の共有、成果品構成確認を行い、成果品(報告書)の取り纏めを行う。令和8年12月を目途に「Acceleration Records on Dams and Foundations No.4」を発刊する。  
各機関に依頼しているデータの集約を行い、年度内の報告書発刊を目指す。

(3) **内外情報発信事業**

1) **会誌「大ダム」の発行**

企画委員会編集分科会の編集方針に基づき、会誌を4号発行する。ICOLD メキシコ・グアダハラ年次例会開催案内と報告、同シンポジウム発表論文紹介、ダム技術講演討論会概要等を掲載し、日本大ダム会議の活動及び内外のダム技術関連情報等を会員及び一般購読者等に広く紹介する。

2) **広報・環境分科会の活動**

SNSを通じた情報発信を行う。具体的には、Line公式アカウントを利用し、ICOLD関連情報のプッシュ型の情報発信に努める。

3) **角 ICOLD 副総裁を通じた日本の情報発信と海外情報収集**

角 ICOLD 副総裁の活動支援を的確に行う。これを通じて日本の情報発信を行うとともに、ICOLD 役員会情報ならびに ICOLD 各国の情報を JCOLD 会員へ適切に発信していくこととする。

また、費用面でのサポートとして、角 ICOLD 副総裁が ICOLD 役員会出席のための渡航費などの一部経費について JCOLD から支出することとする。

(4) **技術交流・指導事業**

1) **ダム技術講演討論会**

第59回ダム技術講演討論会を、一般社団法人日本大ダム会議と一般社団法人ダム・堰施設技術協会の共催で10月末~12月初旬に開催する。

2) **ダム現場見学会**

ダム現場見学会は、平成19年度からダム工学会と共催で秋季に実施しており、令和8年度も同様に実施する。

3) **若手技術者のための Webinar**

若手技術者(概ね40歳以下)を対象として、参加費無料の Webinar を開催する。技術講演討論会と差別化は、質疑応答時間の確保に重点を置き、講師と参加者の双方向の技術交流が得られる場を目指す。

具体的な内容は、今後 JCOLD-YPF メンバーとの協議によって行うこととする。



図・4.2 Webinar案内のイメージ